

協議会結果及び議事録

会議名称	令和4年度第2回 長崎市公共交通活性化協議会		
日時	R4/7/15(金)	場所	長崎県勤労福祉会館 2階講堂
出席者	別紙名簿のとおり		
議題	(1)長崎市地域公共交通利便増進実施計画(東部地区)について (2)長崎市市域乗合バス事業共同経営計画について (3)その他		
結果	(1)長崎市地域公共交通利便増進実施計画(東部地区)について ・ダイヤ等の地域への周知や、実施後も改善を行ってほしい旨の意見を付されたうえで、原案どおり承認された (2)長崎市市域乗合バス事業共同経営計画について ・運行後も引き続き、地域の方が使いやすい工夫を継続してほしい旨の意見を付されたうえで、原案どおり承認された		
議事録	議題(1)	<p>【議題(1)長崎市地域公共交通利便増進実施計画(東部地区)について】</p> <p>山口副会長(日見地区) バスが今後どのようなダイヤになるのかなど、地元にも説明できる内容なのか。</p> <p>事務局 地域には説明を重ね、最終的にはやむを得ないという形でご理解をいただいたと理解している。ダイヤは国へ届け出を行い、確定次第バス停への掲示など可能な限りの周知を図る旨地域にも説明し、理解を得ている。</p> <p>片江会長 バス事業が現状のままでは立ち行かないという共通認識をいただいていたうえで、減便など一定の利便性の低下を受け入れていただいていると理解している。その中で可能な限り地域の意見を踏まえて利便性を保ちつつ、経営の改善を見込める案として今回示している。今後も行政とバス事業者で説明を尽くすつもりである。</p> <p>島崎会長 会長が言うように、事業の必要性は地域の方でも理解していると思うが、今後も利便性をいかに維持するのかを行政には検討していただきたい。</p> <p>濱田会長(東長崎地区) 前回の協議会以降、地域の説明に来ていただいて、様々な意見が出ている。それを計画案に盛り込み、当初よりも使いやすいバスになっていると思う。計画の必要性は利用者も分かっていると思うが、これからも地域で出た意見をさらに可能な限り反映させていただき、東長崎地区は、諫早、大村、雲仙、島原方面からの入口という認識で全体を見ずえた公共交通を考えていただきたい。</p> <p>藤野会長(橘中学校区) 橘中学校区は新興の住宅地で利便性のあるバスだと感じている。改定された後の利便性を見て意見することはあると思うため、今後の運行を鋭い目で見たいと考えている。</p> <p>運輸支局 コミュニティ交通への転換で、運賃の認定はどうなるのか。</p> <p>事務局 現在長崎バスの設定運賃は、10月以降も県営バスが同等運賃で引き継ぐ。</p> <p>片江会長 行政、バス事業者ともに今回の計画が不変のものではないと認識し、不都合な点、改善できる点は、地域と意見交換しながら適正に見直していただきたい。計画案は原案通り承認することとしたい。なお、事務処理上微修正が必要な場合は会長に一任いただきたい。《意見なし》</p>	

【議題(2)長崎市市域乗合バス事業共同経営計画について】

山口副会長(日見地区)

新規路線の共同運行の運行時間は16:30までか。

柿原部長(県営バス)

スタートはこの時間帯で運行したいと考えているが、新しい路線であるので、その後の利用状況等の推移を見ながら考えていきたい。

野口副会長(日見地区)

日見地区は、地域の意見交換では1往復になる可能性があるとの説明であったが、2往復(4便)が維持されると考えて良いか。

柿原部長(県営バス)

地域への説明の中で、4月は3便から2便へ、10月は2便から1便へとなるのは性急すぎるのではという声があったことも踏まえ、当面はこれまでどおり2便を維持することとしたもの。その後については、利用動向など状況を確認しながら考えていきたい。

濱田会長(東長崎地区)

コミュニティ交通の時間などは考慮していただいている。乗継拠点の整備も、重ねてお願いしたい。

事務局

以前から本協議会からも乗り継ぎ環境の整備のご意見を頂いていたが、先日開催された7月の臨時議会で、中心部向かいの矢上バス停整備費の予算議決をいただいた。県営バスに長崎市が補助金を交付し、上屋、囲い、ベンチの増設を行うなど、現時点で可能な限りの環境整備を実施する。その後は利用状況を見ながら必要に応じて改善を考えたい。

バス協会

乗継割引のため還元されるセンターポイントは、ポイント交換が必要と思うがその有効期限はいつまでか。

柿原部長(県営バス)

有効期限は1年程度で、センターポイントを運賃に使用できる電子マネーに変えていただく必要があるが、ポイント交換機が乗継箇所となる矢上バス停にあるにこにこセンターに設置されているため、週に1回とか月に1回などの頻度で手続きすることが可能ではないかと考えている。

片江会長

乗継割引ポイントをきちんと自分のものにするのは利用者にとって関心の高いところかと思う。市も高齢者交通費助成の中でポイント還元については慣れるまでは大変だということもあった。今後のダイヤ等の説明と合わせて、ポイント取得の仕方について、滞りなくできるように配慮いただきたい。

西岡教授

バス停に囲いを設けるだけでは夏の暑さや冬の寒さはしのげないが、近くに暑さをしのげる場所や暖をとれる場所はあるのか。

事務局

そのような影響を可能な限り軽減するため、乗り継ぎ時間を5分から10分程度と可能な限り短くしたい。なお囲いは防犯上の観点から前面はオープンにし、日差し、風雨をしのげるといった、現状として可能な限りの環境を考えている。

福島課長補佐(長崎県)

春日車庫から潮見町までコミュニティ交通になるが乗り継ぎが必要なのか。また、計画はつつじが丘や牧島、戸石方面の自治会にも説明しているのか。

事務局

潮見線は春日車庫発着便の一部を潮見発着に変更するため、乗継は発生しない。また、つつじが丘方面へは、8月に説明会を開催する予定である。

片江会長

今後地域の方が使いやすい工夫を引き続き考えていくということで共同経営計画として認めることとする。 <<意見なし>>